

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成25年8月29日現在

今月の重点活動

■枝豆 GAP巡回調査実施、副読本の指導

JAぎふえだまめ部会では、平成22年度からGAPの取り組みを開始している。農業普及課も同行し、7/19～8/8の5回で計102戸の現地調査を行い、チェックすべき29項目についての改善点等指導を行った。以前と比較すると、GAPに対する意識が向上している状況であった。

7/30に、農業普及課は岐阜市内の学校教員に対してえだまめ栽培研修会を行い、産地の取り組みなどを紹介した。今年度から市内の社会科3年生の副読本のえだまめ頁が増加したことによるもので、昨年から2回目の実施となる。



【GAP調査】

活力ある新産地づくり

■アスパラガス 第3回アスパラ塾を開催！

第3回目となる今回は受講者8名を含む計12名が参加し、室内講義と現地研修を行った。室内講義は、ハウス栽培での株養成～全刈り処理までを農業普及課から説明し、現地では、定植して株養成中のハウスを見学した。生育が旺盛なアスパラガスを目の当たりにして、参加者は益々興味が湧き盛り上がったアスパラ塾となった。

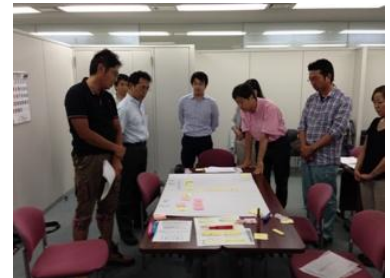


【赤色防虫ネット展示ハウスの見学】

売れる農畜産物づくり

■いちご りふいちごブランディング会議

岐阜地域のいちご産地では、生食用以外の消費を拡大するため、農商工連携を進めている。この連携体グループでは、「ぎふいちご」のブランド化を確立するための会議を定期的開催しているが、連携体事業者も増えてきたため、様々な業界の方が集まり、多くの意見が出てきた。今回は、「ぎふいちご」のターゲットを考えようと題して、グループ討議を行った。



【会議風景】

■にんじん 冬にんじん栽培講習会の実施と播種作業開始

農業普及課は、各務原市園芸振興会にんじん部会で、冬にんじん栽培講習会を行い、乾燥防止策、病虫害防除、計画的な播種などについて説明した。播種作業は8月上旬から開始され、今後9月上旬まで順次行われる予定である。しかし、今年の8月は降水量が少なく、8/7以降雨の無い状態が続いており、灌漑施設の無いほ場では畑への灌水が困難な状態で発芽への影響が心配される。



■夏秋なす (ほ場巡回・袋栽培視察)

8/2 本巣市なす振興会では会員全員によるほ場巡回を行い、各会員の日頃の手入れや栽培方法を確認した。5月以降天候に恵まれ、全体的に平年を上回る生育であったが、少雨の影響でカスミカメ類やオオタバコガの被害は平年より早く発生しており、農業普及課から防除ポイント等の情報提供を行った。また、8/7には有志会員による揖斐地域で行われている「独立袋栽培」の現地試験ほ場を視察した。管内でも作付ほ場が固定している農家も多く、興味深い視察研修となった。



【圃場巡回風景】

■なし 幸水出荷は順調

岐阜市なし振興会は 8/6、瑞穂市なし振興会は 8/5、糸貫なし振興会は 8/4 に目揃い会を開催し、出荷が始まっている。今年の幸水は、果実肥大が良好で糖度も高く、お盆前にジベレリン処理したものを中心に半量程度出荷でき、市場の要請に応えられた年となった。なお、8/2 の県研修会にて、なしのカラス対策「くぐれんテグス君」を設置した実証園で、視察研修を行った。8/19 にカラス被害を調査したところ被害はなく、効果があったと生産者も喜んでいる。



【糸貫での選果】

■フランネルフラワー ～品質向上をめざして～

3月に播種を行った秋出荷用フランネルは、現在3.5号へ鉢上げされている。夏期の水管理等により品質にばらつきが出やすいため、農業普及課では展示ほを設置し、界面活性剤使用による土壌水分の安定化について試験している。9月の出荷前に草姿やロス率等の調査を実施し、効果について検討する予定。



【展示試験の状況】

■ソバ 新規栽培の着手

大桑機械化営農組合では、今後増加するであろう中山間地の水利条件の悪い水田をうまく利活用するために、ソバの作付けを検討し、本年から試験栽培を行う。農業普及課は、近隣の先進地である関ヶ原町の栽培暦等の情報を入手し、JA担当者と協力して機械利用への助言や関ヶ原町における栽培状況を調査し、8/20の播種につなげた。

多様な担い手の育成・確保

■JAぎふ水田農業担い手連絡協議会研究交流会（担い手研究会）

8月7日にJAぎふアグリパークで管内水田農業担い手を対象とした研究会が開催された。JAから米穀情勢報告や農機の安全使用講習が行われ、農業普及課からは本年度の稲生育概況や新技術の密播疎植栽培について報告した。基調講演では、関西でハツシモを扱う会社役員から「ハツシモの販売戦略とブランド化の取り組み」について報告を受けた。休憩時間も農業者・農業関係機関・行政が情報交換を行う等有意義な交流会となった。この夏の交流会は初の試みであったが、次年度以降も開催したいという意見が多数聞かれた。



【水田農業担い手研究会】

県民みんなで育む農業・農村

■まくわうり

7/26～まくわうりの収穫が始まった。本年度は生育も順調で平年並み以上の収穫となった。8/7には恒例となっている真桑小学校3年生によるまくわうりのシャーベットづくりが行われ、小学校の畑で収穫されたまくわうりの調理を親子で楽しんだ。



【シャーベット作り】

■柿 第3回瑞穂市柿振興会諮問委員会が開催される

8/8に第3回瑞穂市柿振興会諮問委員会が開催された。今回は、瑞穂市在住の岐阜女子大学非常勤講師 今井敬潤先生から「瑞穂市の柿の歴史と今後の展望」について講演を受け、富有柿発祥の地としてもっとPRすべきと助言をされた。講演後、農業普及課が主導で行った前回のSWOT分析の現状分析に基づき、柿のPR方法などについて委員から積極的に戦略の意見が出された。今後も継続して会議を開催する予定である。